
経済学辞典

第2版

経済学辞典

第2版

大阪市立大学
経済研究所編

岩波書店

経済学辞典 第2版

1965年9月21日 第1版第1刷発行
1979年6月15日 第2版第1刷発行©
1983年2月15日 第2版第3刷発行 定価 6000 円

編 集 大阪市立大学経済研究所

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
発 行 所 株式 岩 波 書 店
会社
電話 (03)265-4111 振替 東京 6-26240

組版:シーティエス大日本 印刷:大日本印刷 製本:宮内製本

Printed in Japan 落丁本・乱丁本はお取替いたします

第2版へのまえがき

《経済学辞典》第1版は1965年秋刊行され、幸い多くの読者に迎えられて刷を重ねた。爾来、14年の歳月が流れている。

第1版が発行されていた1960～70年代は、わが国はもちろん、世界的にも激しい変動の時代で、従来のシステムや価値観の多くは過去のものとなり、政治・経済・社会のすべての面で新しい状況や問題が生じた時期である。またこの激動のなかで、経済学の側でも、理論や分析用具の再検討・陶冶の必要に迫られ、多面的な展開をみるにいたったが、それは一面では専門化の徹底であるとともに、他方で広く学際的協力を不可欠のものとしたのである。

いうまでもなく、辞典の役割は経済学についてのたんなる断片的知識の提供にあるのではない。現実の経済事象を解明し、正しい客観的認識を得ることが経済学の課題であるかぎり、本辞典もまた以上の時代的要請に応えて、その内容を刷新し、経済学の発展を反映するものでなければならない。われわれは何よりもまずこのことを改訂の基本とし、第2版の編集に着手したのである。

1975年4月、第2版のための編集委員会を構成し、第1版の項目編成および各項目の徹底的な検討の上で、本所の全スタッフおよび本学の商経両学部の一諸氏の協力を得て新版の企画・編集にあたった。

第2版の編集にあたって、第1版刊行後10数年間における経済・社会に生じた大きな変化、またそれに対応する経済学ならびに関連諸科学の発展を反映させようとしたことはもちろんであるが、さらに、1)中項目を項目編成の基本とし、たんなることばの解説でなく、ことがらの解明に重点をおいた〈読む辞典〉としての性格を基調とすること、2)索引や項目末尾の参照項目の併用により、より広範な体系的理解と〈ひく辞典〉としての小项目的な利用を可能ならしめること、3)マルクス経済学と近代経済学のいずれの分野においても、日本の経済学界の最新最高の水準を忠実に反映させること、4)経済理論上の知識の提供だけでなく、応用領域を広くカバーすること、5)重要事項については国別対

比・特徴の理解を容易ならしめるため各国別叙述を行なうこと、6)隣接諸科学を広く収録して学際的研究に資すること、7)参考文献の詳細・厳密を期することなど、《経済学辞典》第1版の基本性格を継承した。

編集にさいしては、近代経済理論や国際経済・地域経済・都市問題その他多くの分野では全く新しい角度から項目を全面的に再構成し、稿を新たにした。反面、新しい項目を収録するため第1版にあった古代・中世経済史などの若干の項目や解説的小項目の事項をあるていど犠牲にせざるをえなかった。その結果、第1版にくらべて、277項目を廃止し、新しく333項目を追加し、384項目を全面的に書きなおして、全項目の半分近くが全く一新されたものとなった。残りの項目についても加筆修正、参考文献の追加などを大幅に行ない、ほぼ全面的な改訂増補がなされた。索引についてもまったく新たに編集しなおして、索引項目の抽出・整序、相互の関連づけ、同義異語の統一など完璧を期した。したがって分量も20パーセントあまりふえ、旧版のたんなる改訂増補版というよりは実質的に新版とってよい内容をもつものである。

かえりみれば、わが大阪市立大学経済研究所の前身である大阪商科大学経済研究所が《経済学辞典》第1巻を岩波書店から刊行したのは、研究所創設まもない1930年11月であった。この《経済学辞典》は1932年5月、全5巻、総索引1巻を以て完結し、さらに36年10月追補1巻を刊行した。この辞典は、追補を含め、全7巻、5,096項目、3,652ページに及ぶ膨大なものであったが、本邦最初の科学的で総合的な経済学辞典として高い評価を受けた。

その後、よりコンパクトな小辞典の企画が1937年頃よりすすめられ、すでに一部は印刷にもとりかかっていたが、第2次大戦下の諸事情のため中絶のやむなきにいたった。戦後、この企画を継承し、全く新しい情勢のもとでつくられたのが本辞典の前身ともいえるべき《経済学小辞典》であった。《小辞典》は1951年6月に、そして増訂版が1956年4月に刊行された。

《小辞典》は、第2次大戦後に開花した思想・研究の自由のもとで編纂されたとはいえ、戦前・戦時の閉塞状況下で達成され蓄積された研究水準に制約されざるをえなかった。当時はまだ外国文献の入手も容易でなく、精神的思想的に

は自由が保障されていたが、物質的には悪条件のもとで刊行されたものである。さきのべた中項目を基本とした特徴はこの《小辞典》でつくられている。《小辞典》上梓後14年を経て1965年に刊行された《経済学辞典》第1版は、《小辞典》の基本性格を踏襲しながら、全く構想を新しくし、戦後20年の発展を経たわが国の経済学界の最新最高の水準を反映したものと自負しうるものであった。しかしすでにのべたように、第1版刊行後の10数年の歳月は、この自負を持続しうるためには、新たな第2版の編集を必要とさせるにいたったのである。

本辞典第2版の編集には崎山耕作、山本正治郎、山崎春成、奥村茂次、浜田博男、中野安、西田稔、中川信義、福田義孝の9名があたった。

おわりに、本研究所は、1978年8月1日、大阪商科大学経済研究所として創設されて以来50周年の記念の日を迎えたが、この《経済学辞典》第2版は本研究所創立50周年記念事業のひとつとして刊行されるものである。1930年以来50年の間、岩波書店との共同事業として数次にわたり経済学辞典を刊行してきたが、今次の第2版もその緊密な連携の成果である。長期間にわたる岩波書店の協力とその緻密な作業に示された出版社としての良心にたいし深甚の謝意を表したい。

1979年3月

大阪市立大学経済研究所

凡 例

I 項目について

- 1) 項目の配列は表音五十音順による。カタカナの長音は無視して配列した。
- 2) 二つ以上の呼称・訳語が一般に行なわれている事項は、代表的と思われるものを初頭にあげ、他を括弧に入れて並記した。この場合、索出の便宜のため後者を〈見よ項目〉としてあげておいた。

例 産業連関論(投入産出分析)

投入産出分析 ⇒ 産業連関論

- 3) 相互に密接な関連のある2事項は、並記して1項目としてあつかった。この場合も後出の事項は〈見よ項目〉としてあげておいた。

例 完全雇用・不完全雇用

不完全雇用 ⇒ 完全雇用・不完全雇用

- 4) マルクス経済学と近代経済学と双方に共通する事項は、その基本的なものにかぎり、
1, 2, で区別して、それぞれ独立の項目としてあつかった。

例 資本1 資本2

- 5) 人名項目のうち日本人は故人に限定した。

II 本文について

- 1) 現代かなづかいにより、漢字はなるべく当用漢字の範囲にかぎるようにつとめた。
- 2) 暦年は原則として西暦を用い、必要に応じて日本年号・中国年号を付記した。
- 3) 文中で敬称はいっさい省略した。
- 4) 参照項目はその項の本文末尾に⇒印で示したが、まれに文中に示した場合がある。
- 5) 記号

〈 〉 引用句・引用文および注意を要する術語

《 》 著書・論文・雑誌の題名

・ = - などは一般に通用している用法のほか、次のような場合に用いた。

・印 外国人の姓と名との区切り(例 アダム・スミス)

=印 互いに密接な関係にある2人の人名(例 ヘクシャー=オリーン命題)

-印 二つの姓の合一からなる姓、2語以上からなる外国語の仮名表記(例 ベー
ム-バヴェルク、ショック-エラー-モデル)

III 索引について

索引凡例は別に掲げた(1388頁)。

IV 参考文献について

- 1) 各項目の本文末尾に参考文献(人名項目では主著・全集著作集・参考文献)をあげた。
- 2) 参考文献の配列順序は、邦語文献・中国語文献・欧文献・ロシア語文献の順とし、

そのおのおのを原則として、邦語文献は著(編)者名の五十音順、その他は著(編)者名のアルファベット順であげた。ただし、学説史・論争史に関する項目などでは、本文との照応上この順序によらなかった場合がある。

3) 参考文献は単行本の場合は

著(編)者名、書名、出版社名(邦語文献のみ)、刊行年、をこの順序で記載した。

4) 雑誌掲載論文の場合は

筆者名、論文題名、掲載誌名、巻号、刊行年、をこの順序で記載し、掲載誌名以下を括弧でくくった。

5) 単行本所収の論文の場合は、筆者名、論文題名のあとに、その掲載書を3)の形式に準じて括弧にくくって示した。

6) 外国文献で邦訳書があるものは、できるかぎり訳書を付記し、3)の形式に準じて括弧にくくって示した。数種の訳書がある場合は、原則として最新訳または文庫本をあげた(文庫本では刊行年を省略)。

7) マルクス、エンゲルス、レーニンの著作にかぎり、邦訳書は大月書店版のマルクス=エンゲルス全集、レーニン全集のそれぞれの巻数のみを示した。この巻数はそのままオリジナルテキストの全集の巻数に対応しているからである。大月書店版以外の邦訳書は、それぞれの人名項目で詳しく記載した。

8) 略号

B.—Bulletin

J.—Journal

Jb.—Jahrbuch

Jb-r.—Jahrbücher

R.—Review, Revue

Z.—Zeitschrift

A. A. A.—American Accounting Association

C. C. M.—Cowles Commission Monographs

Encycl. Soc. Sci.—Seligman, E. R. A.(ed.), Encyclopaedia of the Social Sciences

G. d. S.—Grundriss der Sozialökonomik

HB Finanzwiss.—Handbuch der Finanzwissenschaft

HWB Sozialwiss.—Handwörterbuch der Sozialwissenschaften

HWB Staatswiss.—Handwörterbuch der Staatswissenschaften

NBER—National Bureau of Economic Research

A. Amer. Acad. polit. soc. Sci.—Annals of the American Academy of Political and Social Science

A. Sozialwiss. Sozialpol.—Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik

- Accting R.*—Accounting Review
- Allgem. statist. Archiv*—Allgemeines Statistisches Archiv
- Amer. econ. R.*—American Economic Review
- Banca Naz. Lav. quart. R.*—Banca Nazionale del Lavoro quarterly Review
- Berichte Landwirtsch.*—Berichte über Landwirtschaft
- Canad. J. Econ.*—Canadian Journal of Economics
- Econ. Dev. cult. Change*—Economic Development and Cultural Change
- Écon. et Statist.*—Économie et Statistique
- Econ. Hist. R.*—Economic History Review
- Econ. int.*—Economia Internazionale
- Econ. J.*—Economic Journal
- Econ. Rec.*—Economic Record
- Fed. Reserve B.*—Federal Reserve Bulletin
- Harvard Busin. R.*—Harvard Business Review
- Hitotsubashi J. Econ.*—Hitotsubashi Journal of Economics
- Industr. Manag. R.*—Industrial Management Review
- Int. econ. Pap.*—International Economic Papers
- Int. econ. R.*—International Economic Review
- Int. Lab. R.*—International Labour Review
- Int. soc. Sec. R.*—International Social Security Review
- J. agric. Econ.*—Journal of Agricultural Economics
- J. Amer. statist. Ass.*—Journal of the American Statistical Association
- J. Busin.*—Journal of Business
- J. econ. Hist.*—Journal of Economic History
- J. econ. Lit.*—Journal of Economic Literature
- J. econ. Theory*—Journal of Economic Theory
- J. Farm Econ.*—Journal of Farm Economics
- J. int. Econ.*—Journal of International Economics
- J. Money, Credit & Banking*—Journal of Money, Credit & Banking
- J. polit. Econ.*—Journal of Political Economy
- J. Roy. Statist. Soc.*—Journal of the Royal Statistical Society
- Jb-r Nat.-ökon. Statist.*—Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik
- Konj. u. Krise*—Konjunktur und Krise
- Mthly. Rep. Dtsche. Bundesbank*—Monthly Report of the Deutsche Bundesbank
- Nat. Tax J.*—National Tax Journal
- Oxford econ. Pap.*—Oxford Economic Papers

- Quart. J. Econ.*.—Quarterly Journal of Economics
- Quart. R. Econ. Busin.*.—Quarterly Review of Economics & Business
- R. Écon. polit.*.—Revue d'économie politique
- R. Econ. Statist.*.—Review of Economics and Statistics
- R. econ. Stud.*.—Review of Economic Studies
- Sci. & Soc.*.—Science & Society
- Scott. J. polit. Econ.*.—Scottish Journal of Political Economy
- South. econ. J.*.—Southern Economic Journal
- Staff Pap.*.—IMF Staff Papers
- Weltwirtsch. Archiv*.—Weltwirtschaftliches Archiv
- Wirtsch.-wiss.*.—Wirtschaftswissenschaft
- Z. Betriebswirtsch.*.—Zeitschrift für Betriebswirtschaft
- Z. ges. Staatswiss.*.—Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft
- Z. ges. Versicherungswiss.*.—Zeitschrift für die gesamte Versicherungswissenschaft
- Z. Nationalökon.*.—Zeitschrift für Nationalökonomie
-
- Вест. статист.*.—Вестник статистики
- Вопр. экон.*.—Вопросы экономики
- Вопр. филос.*.—Вопросы философии
- План. хоз.*.—Плановое хозяйство

執 筆 者

相	川	哲	夫	相	沢	秀	一	青	井	和	夫	青	木	外	志	夫
青	木	昌	彦	赤	岡	岡	功	秋	山	一	郎	秋	山	立	博	一
明	野	義	夫	麻	島	昭	一	遊	部	久	藏	足	立	英	英	之
安	孫	子	麟	安	部	一	成	阿	部	松	統	阿	部	真	祐	吉
天	川	潤	郎	荒	憲	治	郎	荒	藤	良	雄	飯	尾	川	二	要
荒	牧	正	憲	安	東	盛	人	飯	田	裕	康	飯	沼	川	榮	郎
飯	野	春	鼎	伊	大	良	太	伊	賀	隆	誠	生	本	本	治	清
飯	田	勝	樹	池	田	穎	昭	池	井	素	介	池	石	石	男	雄
池	井	吾	郎	石	石	和	孝	石	石	定	夫	石	石	石	雄	雄
石	川	常	雄	磯	田	善	助	磯	井	忠	義	井	井	井	二	吉
石	原	武	政	市	橋	英	世	井	伊	隆	文	伊	東	毛	春	一
石	渡	貞	雄	伊	東	光	晴	井	今	嘉	憲	稻	上	幸	二	郎
一	谷	藤	郎	井	上	晴	丸	入	江	淳	巳	井	堀	誠	次	道
伊	東	政	吉	井	井	喜	子	岩	崎	太	郎	入	江	節	茂	三
稻	原	康	雄	井	村	弘	融	上	田	稜	雄	岩	野	田	昭	隆
井	上	忠	勝	岩	井	草	益	牛	尾	造	敏	上	見	田	俊	吉
伊	牟	敏	充	植	井	井	三	内	田	朗	計	内	海	庫	一	郎
入	江	和	夫	植	田	義	晋	内	橋	昌	典	江	口	原	良	一
岩	元	裕	秋	白	野	博	彦	浦	田	和	明	大	石	嘉	一	郎
上	野	治	也	内	沢	讓	爾	越	後	輝	雄	大	大	内	力	充
氏	原	忠	郎	宇	藤	湘	吉	遠	藤	行	三	大	大	坂	秀	通
内	田	義	夫	江	石	泰	彦	大	泉	政	一	大	大	田	英	二
江	海	朴	郎	遠	川	里	勉	大	島	雄	之	大	大	野	男	好
江	村	稔	郎	大	大	久	士	大	塚	秀	達	大	大	岡	茂	祐
大	川	三	司	大	大	周	雄	大	橋	隆	二	大	大	岡	与	直
大	崎	平	郎	大	大	輝	松	大	和	瀨	一	岡	岡	岡	部	部
大	谷	禎	介	大	大	榮	保	岡	岡	利	良	岡	岡	岡	部	部
大	野	精	郎	大	大	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	部	部
大	屋	祐	雪	大	大	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	部	部
岡	田	裕	之	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	部	部

岡小奥尾鬼小貝香片加角金龜河川河岸北木木清久倉黒小幸小琴小小近酒坂阪作里	村川崎木野塚川岡藤松子井合口島本原下村成保和田沢池田谷野林室藤井元本靖太郎	明喜茂英信啓敏三正敬利俊哲一郎貫夫一男和生清男蔵次孝昇人二夫八郎	達一次二甫爾明幸昇郎雄生明三弘郎郎貫夫一男和生清男蔵次孝昇人二夫八郎	岡小奥尾鬼小海笠片加金金龜川川上岸北木木吉熊倉黒小神後小小小齊酒坂向笹佐	本川崎塚野道原桐藤子田田上久保田林本村村良谷林住泉野藤西林山藤井本坂川藤	愛八正彦光義長俊重速秀公治也直夫郎夫正章明一郎雄齊男孝隆一男三	次郎二朔政彦進寿薫彦晃喜穂光夫侃郎也直夫郎夫正章明一郎雄齊男孝隆一男三	岡小奥長小尾海嘉片加金鎌加川川河菊北北木木楠熊栗黒小古後後小是齋坂阪崎佐	本川名野上道治山藤子田用北崎地池川山村元進捷一田計正新哲好純太楠耕木和	良寬朝久勝真謙睦卓武信文重光康敏一朗誠健夫則一也宏弘稔郎彦作建夫	一登宏明男雄稔三二夫治治文稔治蔵造豊夫男郎朗誠健夫則一也宏弘稔郎彦作建夫	小置小越小野小戒梶片加金神川川河河岸北木木朽倉黒呉神小後小林村藤伯本口竹藤	川塩棕智一原能井山藤子谷合口崎野井原下村本木田川天喜藤袈衆秀尚二安義三	和信広和一敬通伍太ハ不一慎俊健貞悦増幸俊天和一娑衆秀尚二安義三	男雄勝雄郎士孝功一郎オ二郎二二男勇二三造清稔雄降欣一郎靖治統樹美一郎卓昌郎
--------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------

博子男夫裕彦一滋郎甫夫介男一郎彦夫哉治武誠久宏元晴夫美三夫治吉夫一郎樹良
 藤陽澄和恭嘉林士隆明圭光諒一江吉節暢利富祥信生尚庄昌弘甚秀善德茂重
 藤野田垣田村海川永野木木ノ岡垣木野橋口内浪坂中田野沢井田村園山永
 佐佐重柴柴島志東新末杉鈴鈴鈴住瀬高高高高高田竹田巽田田谷玉近筑津津寺遠德

明稔一夫衛昭德雄敏一滋平夫德豐子典夫昌三朗一郎子雄郎弘弘平典太郎男匠榮毅三治
 經晃靖德政正房佐素忠尚芳巳種督昭敏太啓美孝一正敏知良太幸内正衆政
 藤野田池田谷水山井藤谷山木田尾島梨橋菊內惠龍元中口垣波康幸田嶋峻盤
 佐佐重芝柴洩清下白真杉杉鈴鈴角瀬副高高高高瀧竹竹中館建田谷玉丹長津角手暉常

進雄一子治猛二一博彦朗靖夫二男玄馨郎雄雄啓夫一三行助也茂紀躬昌郎藏朗淑
 藤方正祐悅幸瑛瑛雅俊重淑昌喜紀秀田幸哲秀隆脩吉重清勝正忠義六勇光永
 藤方原田山水井庄江本木田田谷宇高田高橋林內田村岡中辺瀬村塚屋口本永
 佐実塩篠柴柴清下白新杉杉鈴鈴住隅惣高田高竹武竹多楯田田種田遲辻土出寺時

幸治衛美午自二一幸統平一郎夫弥彦義郎博徹太郎裕明温太郎二陽次晴良郎平生激郎三久
 定賢兵重進拓亮浩邦芽一四一鴻一雪禄一恒幸賀橋長太芳敬太京菊真新芳知厚真大鉄嘉久
 藤見庄重進拓亮浩邦芽一四一鴻一雪禄一恒幸賀橋長太芳敬太京菊真新芳知厚真大鉄嘉久
 佐里塩地芝芝島下庄新杉杉鈴鈴鈴住関高高高高高田竹竹田伊田田谷玉地辻津都寺戸

富富内	岡山	次康	郎吉
中長	藤尾	正史	中郎
中長	川島	信義	義一
中永	西原	誠市	郎二
中中	村安	達定	也子
新中	島幸	修次	三郎
西西	川田	孝俊	潤稔
西新	村崎	幸一	夫三
野々	村正		雄雄
裕橋	本部	春	夫徹
服馬	場島		彦昭
浜早	川田	和伴	朗男
林原	山井		基彦
菱平	林田	嘉正	泉彦
平弘	岡原	行浩	博男
福福	瀬田	若	夫三
藤藤	本川		司雄
古別	府正	十	武哲
			郎

目 次

ア

IMF ⇒国際通貨基金 (404)	
IMF 特別引出権 ⇒SDR (48)	
ILO ⇒国際労働機関 (411)	
アイサード	1
ICI	1
アイデンティフィケーションの問題(識別の問題, 認定の問題)	2
アグリビジネス	3
アジアの生産様式	4
アジアの専制主義	4
アッヘンワル	6
圧力団体	6
アフタリオン	7
アヘン戦争	7
アヘン貿易	7
天野為之	8
アメリカ会計原則	8
アメリカ学派	9
アメリカ経営学	10
アメリカ資本主義	
1 資本主義の発展	11
2 第2次大戦後	13
アメリカ独立戦争	15
アモン	16
アロー	16
安価な政府	16
アンクタッド(UNCTAD) ⇒国連貿易開発会議 (432)	
アンダーソン	17
安定貨幣 ⇒中立貨幣・安定貨幣 (888)	

イ

EEC ⇒欧州経済共同体 (58)	
イギリス革命	17
イギリス資本主義	
1 資本主義の発展	18
2 第2次大戦後	20
イーゲーファルベン	21
移行論争	21
意思決定	22
石橋湛山	23
依存効果	23
イタリア資本主義	
1 資本主義の発展	24
2 第2次大戦後	24
一次産品輸出国機構	25
一般組合	26
EDP会計	27
イデオロギー	27
移動平均法	28

猪俣津南雄	29
移 民	29
入会権	30
医療経済	31
医療保険	31
イングランド銀行	32
因子分析	32
インダストリアル-エンジニアリング	33
インデクセーション	34
インド資本主義	34
インフレギャップ・デフレギャップ	36
インフレーション	36

ウ

ヴァイナー	38
ヴァルガ	38
ウィクセル	39
ウィクセル的累積過程	39
ウィーザー	40
ウィットフォーゲル	40
ウィーン学派 ⇒オーストリア学派 (62)	
ヴィンティジ-モデル	41
ウェークフィールド	41
ウェスト	42
上田貞次郎	42
ウェーバー(A.)	42
ウェーバー(M.)	43
ヴェブレン	44
ウォール街	44
迂回生産	44
ウクラード	45
請負制	46
打こわし	46
宇野弘蔵	46
売上税	47

エ

英連邦特惠制度	47
エコー-エフェクト	48
SNA ⇒国民勘定体系 (419)	
SDR(IMF 特別引出権)	48
えた・非人	50
X-非効率	50
エッジワース	50
エネルギー経済	51
FAO ⇒国連食糧農業機関 (432)	
エリート	52
円	52
エンクロージャー	54
エンゲルス	55
エンゲル法則	56

オ

OR ⇒オペレーションズ・リサーチ (66)	
オイケン	57
OECD ⇒経済協力開発機構 (297)	
オイラーの定理	57
欧州経済共同体	58
欧州石炭鉄鋼共同体	60
オーエン	61
大蔵省資金運用部	61
大蔵省証券	62
オーストリア学派(ウィーン学派)	62
オートメーション	63
オーバー・ローン	65
オープン・マーケット-オペレーション ⇒公開市場政策 (355)	
オペック(OPEC) ⇒石油輸出国機構 (787)	
オペレーションズ・リサーチ	66
オリーン	67
卸売商業	67

カ

海 運	69
海運市場	70
海運同盟	70
外貨準備	71
回帰分析	71
階 級	73
会計学	74
外国為替	76
外国為替学説	77
外国為替管理	79
外国為替銀行	80
外国為替市場の安定性	80
外国為替政策	81
外国為替相場	83
外国為替投機	84
外国人労働者	85
会社更生	86
会社法	86
海上保険	87
外部経済・内部経済	88
開放耕地制度	88
開放体系 ⇒封鎖体系・開放体系 (1144)	
海洋法	89
カウツキー	89
価 格	90
価 格(社会主義下の)	91
価格革命	92
価格決定メカニズム	93
化学工業	94
価格差別	95
価格政策	95
価格先導制 ⇒プライス・リーダーシップ (1169)	
科学的管理	96
華 僑	97
確 率	98
確率過程	98

確率分布	99
確率モデル	100
確率論	102
家計調査	103
火災保険	104
貨 出	105
貸付資本 ⇒利子つき資本 (1305)	
貸付信託	106
果樹作	106
過剰就業	107
カースト	108
仮説検定論	109
寡 占	110
過 疎	112
下層社会	113
家族主義	114
家族制度	115
加速度原理	116
価 値	116
価値革命	118
価値形成過程・価値増殖過程	118
価値形態	119
価値自由	121
価値生産物・生産物価値	121
価値判断論争	122
価値表章	122
価値法則	123
価値法則(社会主義下の)	124
合作社	125
カッセル	126
ガット(関税と貿易に関する一般協定)	126
活動分析	127
割賦販売	129
過渡期論	129
金井延	130
家内労働	130
株 式	131
株式会社	132
株式会社発達史	133
株式市場	135
株式プレミアム	136
株式分割	137
株仲間	137
貨 幣	137
貨 幣(社会主義下の)	139
貨幣学説	139
貨幣価値変動会計	141
貨幣金融制度(各国)	
1 アメリカ	142
2 イギリス	143
3 ソ 連	145
4 中 国	146
5 ドイツ	147
6 日 本	148
7 フランス	150
貨幣購買力説	151
貨幣錯覚	151
貨幣市場 ⇒金融市場(貨幣市場・資本市場) (254)	
貨幣数量説	152
貨幣の均衡	153